



第1回 大河ドラマ「風林火山」をめぐって 平成18年9月19日
 講師 佐倉一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長
 樋口 博さん 長野市産業振興部観光課課長

第2回 もっと楽しくて、元気な街づくりを 平成18年10月23日
 講師 久米えみさん ながのクラッセ会長
 樋口敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー

第3回 スポーツによる街づくりを 平成18年11月21日
 講師 鷲沢幸一さん アスレながの事務局長
 室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協会理事

第4回 写真で見る長野の街並み 平成19年1月23日
 講師 清水隆史さん フォトグラファーほか
 常盤昭二さん CMディレクター

わいがやサロンスPECIAL
 スポーツによるコミュニティ再生 平成19年2月22日
 講師 二宮 清純さん スポーツジャーナリスト

第5回 健康と美容を保つために 平成19年3月22日
 講師 虎羽里(トラバリ)ゼーラさん アーユルヴェーダ・健康セラピスト

第6回 環境と街づくり
 ばていお大門・TOiGOの設計に参画して 平成19年4月23日
 講師 竜野泰一さん 株式会社エーシーエ設計 取締役副社長 [一級建築士]

第7回 信濃グランセローズの挑戦 平成19年5月21日
 講師 木田 勇さん 信濃グランセローズ監督

第8回 スポーツマンシップの大切さ 平成19年8月29日
 講師 荻原健司さん 参議院議員・五輪金メダリスト

第9回 トウガラシの尽きせぬ魅力／
 「農」による地域活性を探る 平成19年10月24日
 講師 松島憲一さん 信州大学大学院農学研究科 准教授

第10回 命のバトンを渡す「ビオトープ」／
 長野市をビオトープネットワークシティに 平成19年11月14日
 講師 松岡保正さん 国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授

わいがやサロンスPECIAL
 長野・考/長野の明日を話そう 平成20年2月14日
 講師 中馬清福さん 信濃毎日新聞主筆

第11回 簡単・おいしい・オシャレ/わたしのレシピができるまで 平成20年3月26日
 講師 浜このみさん クッキング・コーディネーター

第12回 あなたのからだは「築何年」ですか？ 平成20年7月14日
 講師 角本浩二さん バランスアドバイザー 長野県健康管理士会会長

第13回 アメリカ生活で感じたあれこれ
 ー変化に対して前向きになることの大切さー 平成20年8月19日
 講師 針谷友久さん 東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)

第14回 市役所第一庁舎及び長野市民会館の在り方を考える 平成20年9月16日
 講師 水野守也さん 長野市総務部次長 兼庶務課長

第15回 長野バルセイロー優勝報告&JFL昇格への挑戦 平成20年10月29日
 講師 バドゥ・ビエイラ監督、薩川了洋コーチ、貞富信宏キャプテン

第16回 農業再生とブランド化 平成20年12月3日
 講師 町田良夫さん 社団法人長野市農業公社 常務理事

第17回 地上の楽園は馬の背にあり 平成21年2月18日
 講師 中山 修さん 中山法律事務所 弁護士

第18回 循環備蓄型の農業の実践
 ー宇宙のリズムにあった農業で一次産業の再生を試みるー 平成21年6月3日
 講師 塩澤研一さん (財)いのちの森文化財団副理事長 (株)水輪ナチュラルファーム代表取締役

第19回 郷土を包む「おやき」平成21年7月14日
 講師 小出陽子さん (同)ふざっ子のお八起 代表/信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー

第20回 信州の伝統から生まれる食文化
 ー漬物の新しい風ー 平成21年9月2日
 講師 宮城恵美子さん (有)宮城商店専務取締役/木の花屋

第21回 飯綱高原を、もっと住みよく、おもしろく! 平成21年11月24日
 講師 志村雅由さん NPO法人 飯綱高原よこらしょ/代表理事

第22回 JFL昇格に向けて 平成22年3月17日
 講師 薩川了洋さん AC長野バルセイロ新監督

第23回 先人の知恵を受け継ぐ〜トチの実、雑穀、あんぼ〜 平成22年5月25日
 講師 石沢一男さん (有)田舎工房 代表取締役

第24回 3度目でつかんだオリンピック出場 平成22年7月28日
 講師 新谷志保美さん バンクーバーオリンピック代表 (株)竹村製作所 勤務

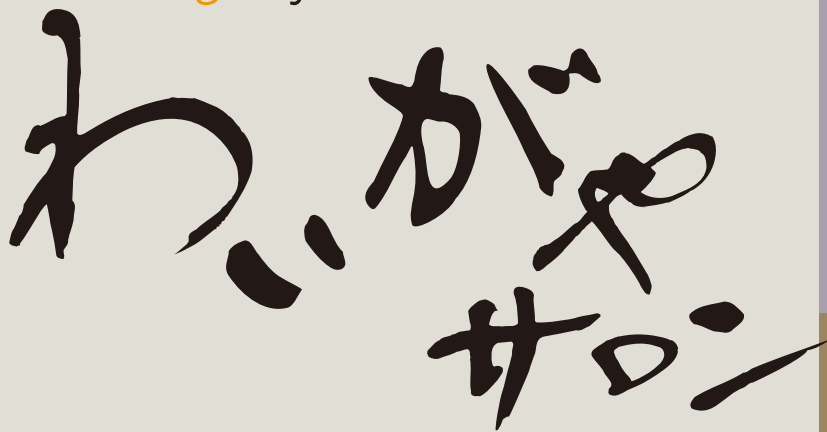
第25回 逃げないスケルトン ～夢と感動と勇気を～ 平成22年9月15日
 講師 越 和宏さん スケルトン競技3大会オリンピック日本代表 (株)システックス所属

第26回 Go to J ー虎長野に ーいよいよ地域決勝大会!〜 平成22年10月25日
 講師 鈴木政一さん 長野バルセイロ・アスレチッククラブ強化本部長

第27回 グランドデザインの視点で「信州の食」を考える 平成22年11月30日
 講師 千村尚司さん 千村ブレイン代表 ソムリエ



NUPRI
 Nagano Urban Policy Research Institute
NPO 法人 長野都市経営研究所
 〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町1289-1 丸本ビル2F
 TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
 www.nupri.or.jp
 e-mail: nupri@nupri.or.jp



通信

Vol. 28
 2011.2



健康で長寿を願う「びんころ地蔵」。
 慈愛あふれる笑顔が参詣者を迎えてくれる
 (佐久市原の成田山)

第28回 ご利益のある町づくり

平成23年1月26日（水）18:00～20:30

講師／川崎史郎さん フリーライター／「アクティブ」主宰

■座長 岩野 彰 場所／NUPRI事務所 TEL.026-235-7911



かわさき しろう 1950年長野市生まれ。ライター、「アクティブ」主宰。『信州癒し寺への旅』『信州の城下町を歩く』など著作多数、「熱い夏～長野オリピック、10年前のあの日へ～」等ラジオドラマも手がける

2011年初回・寒中のわいがやサロンは、地域に密着したフィールドワークで定評のある文筆家・川崎史郎さんをお招きして、最近話題を集めるパワースポットを軸に、ご利益のある町づくりについてお話しいただきました。

著述のテーマは、原点も今も「癒し」

フリーライターの川崎です。時々フリーターと間違われますが、まあほとんど同じようなものです。元々は雑誌編集をしていました。30年前になりますが、長野から全国読者に向けた情報誌「フェアユー（Where are You?）」の発刊（全国コードを得るには審査に通らねばならない。地方出版社が得るのは当時、奇跡に近いことだった）に関わった。溪流釣りや林道のバイクツーリング、露天風呂などアウトドアライフの楽しさを紹介すべく10年間県内をくまなく巡っていくうちに、後発で大手から同じような情報誌が出、また、属していた出版社内部にも変化があったの

で、独自の歩みをしたいとフリーランスのライターになったのです。

以後20年間、信州の鉄道の旅や温泉、お寺、城下町等をテーマにする本を出してきました。「いろいろなジャンルを書いているようだが、お前の専門分野は何だ？」と聞かれることがあります。そんなとき私は「読んだ人がほっとする本、ページを開くとほのぼのする、心がなごむもの、癒されるものを書きたいのだ」と答えます。

人々はなぜパワースポットに惹かれるのか？

「癒し」と言われると、今更と思う方も多いでしょう。この言葉がメディアに多く登場するようになってから何年も経ちますが、ほっとなごむ時代が変わるどころか、むしろ以前より明日が見えない、若い人が深刻に不安を感じている時代になっています。

そんなことが反映されているのが全国的ブームであるパワースポットです。TVや雑誌で毎日のように取り上げられています。長野県にもパワースポットが何ヵ所あり、長野市周辺では特に戸隠神社奥社が江原啓之のTV番組や著作で話題をよび、吉永小百合のCM(JR東日本)でさらに火がつけました。

それを予見したわけではないのですが、私は2008年に『信州ご利益図鑑』という本を出しているんです。内容はパワースポット、あまり知られていない神社や名刹、運が開けそうな食べ物なども取り上げました。



日本有数のパワースポット、戸隠神社奥社への道

ご利益とは

今、社会はいろいろな意味で残念な方向に向かっています。若い人に将来の夢を聞くと「安定した老後」「正社員に」等、現実的なものが多く並ぶ。以前のように社長になるとかの大望が聞こえてこない。若い人を責める気持ちはありません。テレビや新聞は眉をひそめる、うんざりするようなニュースばかり。そういうなかで若者たちに希望を抱けというほうが無理。だから、パワースポットブームが起きているわけです。占いや手相も同じ延長上にあると言えます。不安を消してくれる何かがある。行って自分を変えたいという気持ちが隠れている。所詮、他力本願ではありますが、私はそれで構わないと思います。

辞書によればご利益(りやく)とは「神仏が衆生(しゅじょう)に与える利益。神仏の霊験」。神様仏様が人々に平等に与えてくれるご褒美のこと。日本の神様は寛大で、一心に拝みさえすれば平等にご利益を授けてくれる。

人々が頼みにする神様は古い歴史があるところばかりではありません。飯田市にある「貧乏神神社」は平成10年に元銀行員が建立。貧乏とはお金の問題ではない。棒で心に棲む弱気の虫を叩いて追い出します。佐久市にある「びんころ地蔵」は平成15年に町の有志が昔は賑わっていた成田山参道に建立。人間、年をとると誰でもどうやったら自分の人生を上手に閉められるか漠然と思いますよね。びんころはポッキリ死ぬことを願うというより、最期までびんぴん元気に輝いていたいということであって、そう願う人々が全国から訪れます。

平成6年に中国の気功師が〈気〉が満ちている場所を日本で発見、口コミからTVがゼロ磁場パワースポットとして取り上げ、一気に広まったのが伊那市の分杭峠。峠付近は中央構造線の真上にあり、巨大断層が交差していることが地球の磁気に影響を与えている由、多い日には千人も訪れるとか。私が行った日にもたくさんの人がのんびり座っていました。

空気、病気、元気、日本は〈気〉の文化圏に属しているといわれます。皆さんも戸隠に行って確かに不思議な気に包まれる感覚をもたれることが実際あるのではないのでしょうか。或る場所に行くとも病気が治るという話は世界中にあり、奇跡が起こった地の一つであるフランスの「ルルドの泉」には毎年100万人以上の巡礼者が訪れるそうです。要はこちらの心のありよう。変な先入観をもたずにピュアな気持ちで「行けば必ずいいことが起きる」「病気が治る」と聖地をめざす気持ちが免疫力を高めるといわれています。

見過ごしていたものを発見し、磨こう。

直近の仕事として週刊長野に「ふるさと御利益案内」を連載中です。通りを何気なく歩いていると、ふと時計屋さんの扉を開けたら希少でおめでたい神輿時計を見つけたり、パン屋さんが亀の形のパンを作っていたりという発見があります。長野市は善光寺のお膝元ですから町全体がパワースポットのようなものですが、それにあぐらをかいて何もしないのはいけない。昨年、「トイレの神様」という歌が流行りましたね。私は、この歌にこれからの町づくりのヒントが隠されていると思って仕方ありません。今まで見過ごしていたことを発見したり、地味なことを見つめ直して、磨いてやるのが町づくりに通じ、自分のご利益につながると思います。

講演終了後、お話にもあがった「びんころ地蔵」のストラップがNUPRI事務局から参加者にプレゼントされました。

お話をお聞きして

「戸隠・善光寺という全国区のパワースポットが2つもある(!)長野市。たくさんの人が訪れる割に町にお金落ちない」「滞留時間を長くする食の魅力が必要」「朝の素晴らしさを伝えるべき。そのためには宿泊しなければならないから」等、意見が交わされました。



川崎さんの著書『信州ご利益図鑑』信越放送刊

